

# [歴史民俗資料館]課 経営計画書 (総括表)

## ■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	H23 年度計画額 (単位: 千円)		H23 年度必要人工	
			H23 年度計画額	内特定財源	職 員	臨時職員
1	文化財保護事業	B	5,736	1,470	0.5	0.5
2	歴史民俗資料館運営事業	B	11,941	58	0.5	1.5
合 計			17,677	1,528	1	2

## ■特記事項

--

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	歴史民俗資料館	No.	1
事務事業名	文化財保護事業		
総合計画 の体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	(1)	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習
事業目的	文化財を保護・保存に努め、次世代に貴重な文化財を残す。 また、文化財の見学など身近に触れる体験を通して、学校教育・生涯学習に寄与する。		
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定文化財の保護と普及、新規発見</li> <li>町史調査</li> <li>埋蔵文化財の保護と開発受付に係る調査</li> <li>伝統芸能の継承と普及（学校交流）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古文書整理翻刻事業（予算は地域振興課所管）</li> <li>小口城址範囲確認試掘調査（北小運動場）報告書作成</li> </ul>	
現在における課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統芸能の伝承に苦慮している。北小学校との交流を通じて保存会に活気が出始めているが、地区によって伝承への危機感に温度差がある。</li> <li>文化財の啓発と活用方法の拡充</li> <li>旧北小の試掘調査の成果品整理</li> </ul>		
平成23年度に向けた改善策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統芸能保存会と小学校との交流の定例化と拡大、伝承に対する各地区の取り組みの聞き取りと助言。</li> <li>文化財マップを生かす文化財の啓発と活用の新たな検討。</li> <li>旧北小の試掘調査報告書を確実に完成させる。資料館での成果速報展の開催。</li> </ul>		

## ■作業工程（平成23年度）

月	作業内容
	<b>伝統芸能の伝承</b>
5	学校連絡会で、資料館との交流の一環で伝統芸能保存会との交流も宣伝する。
6	伝統芸能保存会で、新規の会員獲得に向けての現状の聞き取りと、増加への取り組みの討議。
7	北小学校との交流会。他の学校でも条件が整えば適宜行う。
9	文化財マップを生かす文化財の啓発と活用の新たな検討。案が出次第、適宜検討・調整・実施。
	<b>旧北小の試掘調査報告書</b>
4	入札。国庫補助事業書類作成。以後、執筆。
10	秋の企画展で、周辺市町の調査成果も盛り込んだ速報展の開催。
3	報告書完成
	文化財の啓発と活用の新たな検討・・・適宜、検討・調査・実施へ。

## □3年間の目標

目 標	・					
	・					
項 目（単位）	H21 計画	H21 実績	H22 計画	H23 目標	H24 目標	H25 目標

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H24	・
H25	・

## ■事業コスト

		単位	H21 年度決算額	H22 年度当初予算額	H23 年度計画額
事業費		千円	6,993	5,920	5,736
(内特定財源)		千円	23	1,517	1,470
人工	職員	人工		1.0	0.5
	臨時職員	人工		0.5	0.5
	計	人工		1.5	1.0

## ■平成 23 年度 計画額の主な増減(前年度比 20%以上又は 50 万円以上の増減について計上)

(単位：千円)

事業番号	節	科目名称	計画額(増減額)	増減理由
1	1 1	需用費—消耗品費	△22	毎年、太鼓のばちの購入をしていたが、22 年度は破損させる地区が少なく、次年度に在庫の補充をする必要がないため。
		印刷製本費	500	『小口城址発掘調査報告書』印刷作成のため。
	1 3	委託料	△568	伝統芸能の獅子屋形輸送費で例年の状況で 20 千円の減。『小口城址発掘調査報告書』を速やかに書くための委託料と昨年度の発掘調査費の差額で 548 千円減
合 計			△90	

## ■平成 23 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考
埋蔵文化財調査事業費補助金	1,463	発掘報告書(印刷 500+委託 2,426)×1/2
遺跡報告書売払収入	7	
合 計	1,470	

## ■特記事項

旧北小学校における遺跡内(小口城址)で、町施行の掘削を伴う工事がなければ、発掘調査に伴う町費負担がほぼないので、次年度以降、支出予定額が半額近く削減が見込まれる。旧北小学校の跡地利用は、掘削を伴わない整備方法を望む。掘削を伴えば本発掘調査が必要となるが、国による補助制度はない。そのため町単の支出は、全面発掘の場合、最低3カ年で総額1億円(概算)の費用がかかる。

## ■改善策等に対する取組内容

- ・今年度も大口北小学校で「ふるさと大口・お祭りたいけんひろば」を実施。伝統芸能保存会の会議では、後継者問題に対する各地区の取り組みや、今後の活動に係る意見交換をした。
- ・文化財マップに掲載されている主な指定文化財の位置及び解説を、コミュニティバスの時刻表や暮らしの便利帳に盛り込んでもらう。さらに庁舎1階の情報公開コーナーで文化財マップ等の資料を配置するなど、住民の目に情報が触れるよう努めた。
- ・旧北小学校の試掘調査の成果品整理は、調査報告書を完成させ、さらに資料館秋の企画展において成果速報展を実施した。

## ■評価

- ・伝統芸能の保存・継承について各地区の取り組みを伺ったところ、教則映像・音楽のデータ化や宣伝活動など、継承について積極的に進めている。昨年度に引き続き実施した大口北小学校での交流は、伝統芸能保存会の方々に対し活気をもたらしている。今後も学校との連携について継続・強化を図り、各地区の活動を盛り上げ、自立した運営を目指し推進していく。
- ・文化財の啓発と活用について、文化財マップ等の資料に掲載されている情報を、歴史民俗資料館のみで発信するだけでなく、より住民の目に届くように工夫したが、文化財自体の活用についても今後検討していかなければならない。
- ・旧北小学校の試掘調査の成果品整理については、調査報告書を完成させ、その成果を公表できるようにした。報告書完成に先行して、資料館秋の企画展では、当該地の遺跡である小口城に関する展示を実施した。展示内容は、町内の遺跡のみではなく、周辺地域における同時代の遺跡（城）も併せて展示し、会期中には様々な関連イベントを開催して活用を推進した。事業自体は今年度で終了だが、今後も息の長い啓発活動を実施し、小口城という文化財が住民に深く浸透するよう努めていく。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	歴史民俗資料館	No.	2
事務事業名	歴史民俗資料館運営事業		
総合計画 の体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	(1)	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習
事業目的	先人の営みを今に伝え、郷土の歴史に関するものや美術分野の展示等で、町民の知的欲求に応え生涯学習推進の一助の場とする。また、学校の授業やグループ学習、休日の子どもたちの学びの場として、子どもの教育、家庭教育に貢献をしていく。		
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年4回の企画展の開催</li> <li>・常設展示室の管理</li> <li>・展示解説</li> <li>・文化財収蔵庫の管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵品の電算登録作業と管理</li> <li>・学校授業での見学受け入れと出前授業</li> <li>・学芸員実習生受け入れ(一週間)</li> <li>・年報、図録、紀要等印刷物の発行</li> </ul>	
現在における課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民に歴史民俗資料館の認知を深めること及び入館者数の更なる増加</li> <li>・学校教育とのより一層のリンク</li> <li>・文化財収蔵庫内の収蔵品電算登録と整理</li> </ul>		
平成23年度に向けた改善策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より良い企画展の開催、宣伝の工夫により来館者数の増加を図る。</li> <li>・学校の授業での資料館利用及び出前授業等の呼びかけ</li> <li>・文化財収蔵庫内の収蔵品整理は3年計画の2年目。22年度は収蔵庫南棟1階、23年度は北棟1階と南棟2階の一部、24年度は南棟と北棟の2階と特別収蔵庫。臨時職員を1名専属とし職員とともに整備を進める。</li> </ul>		

## ■作業工程（平成23年度）

月	作業内容
4	・学校連絡会で、資料館と連携してどのような事業を展開できるのか、提案する。（現在は4年生の授業で「昔の道具」という授業で見学と夏休みの課題で活用いただいている）。
5	・各学校へ出向き、直接担当の先生と打ち合わせを行い、事業の具現化を目指す。
10	・3年生の授業で「公の施設」という授業で見学 ・4年生の授業で「昔の道具」という授業で見学 ・6年生の歴史の授業等 収蔵庫北棟2階の整備（4～12月）。南棟2階の整備（1～3月） 年4回の企画展の充実と、企画展の宣伝方法を内容によって検討し工夫する。 企画展の新しい運営方法の模索。

## □3年間の目標

目標	.					
項目（単位）	H21 計画	H21 実績	H22 計画	H23 目標	H24 目標	H25 目標

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H24	.
H25	.

## ■事業コスト

		単位	H21 年度決算額	H22 年度当初予算額	H23 年度計画額
事業費		千円	13,662	12,310	11,941
(内特定財源)		千円	134	35	58
人工	職員	人工		1.0	0.5
	臨時職員	人工		1.5	1.5
	計	人工		2.5	2.0

## ■平成 23 年度 計画額の主な増減(前年度比 20%以上又は 50 万円以上の増減について計上)

(単位：千円)

事業番号	節	科目名称	計画額 (増減額)	増減理由
2	7	賃金	△238	主に通勤手当の減(県外の人から町内の人への変更)
合 計			△238	

## ■平成 23 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考
町史売払収入	5	
資料館企画展図録売払収入	14	
まんが「大口の歴史」売払収入	18	
資料館企画展ポストカード	1	
ポスター広告収入	20	
合 計	58	

## ■特記事項

--



## ■改善策等に対する取組内容

- ・常設展示室の解放（子どもたちに遊びながら昔の道具に触れてもらう）。
- ・年4回の企画展開催
  - 春：端午の節句 ～子どもの健やかな成長を願って～
  - 夏：ザ・ジャパニーズ・マジック ～河合勝コレクション～
  - 秋：中世城館でみつけたっ！！ ～出土遺物とめぐる尾北の戦国～
  - 冬：ひなまつり
- ・企画展ポスターを学校や保育園等に直接掲示してもらうなど宣伝方法の改善。
- ・学校での見学受け入れ（計10回、585人）。中学生のグループ学習や職場体験などの資料館活用。
- ・文化財収蔵庫内の収蔵品電算登録と整理。並行して整理方法の見直し。

## ■評価

- ・今年度から企画展開催期間中及び小中学校の長期休暇に該当しない水曜日を閉館することになり、開館日数が18日減少したが、入館者数は10,097人と開館以来最高の入館者数であった。家族で楽しめるテーマ展示をした春及び冬の企画展が認知されはじめ、徐々にではあるが浸透してきた結果である。この結果に満足せず、年間入館者数の水準を維持・発展できるように努力し、宣伝方法や認知度を上げる工夫、常設・企画展示の見直しを常に意識しなければならない。
- ・学校教育と連携については、学校連絡会での呼びかけを進めながら、昨年度の計6回、381人よりも多くの見学依頼をいただいた。今後は出張講座も視野に入れ、直接学校へ訪問するなど、さらに踏み込んだ連携ができるように努める。
- ・収蔵品の電算登録と整理について、3年計画の2年目となる本年度は、専門的知識を持たない臨時職員に対する教育に時間を費やしたため、本来の目標に到達しなかった。しかし、教育のためより丁寧に事務処理を進めていった結果、その方法に改善すべき点を多く見出したため、計画を練り直す必要があると判断した。次年度以降は、改めて計画を策定した上で、収蔵品の有効活用を拡充できるようにする。